

市川・浦安・松戸地区地域協議会

- 1 日 時 令和8年3月25日（水） 午後2時から午後4時
- 2 場 所 明海大学浦安キャンパス 第2管理・研究棟3階4302会議室
- 3 出席者 別紙名簿のとおり（12名／15名）
- 4 概 要

【委員】

- ・高校再編については、今後の人口減少に伴い、ある程度の統合はやむを得ないのではないかと。県東部、南部から都市部への流出が大きく、都市部の学校数、学級数がある程度絞らないと、県東部、南部の高校はますます生徒募集が厳しくなる。
- ・専門学科の学びの魅力化を進めるためには、学習環境の向上＝施設・設備の充実が欠かせない。
- ・普通科改革については、文理横断的な学びの充実、理数系人材の育成に向けた取組等を進めていくべきである。教育課程の編成については、学習指導要領に多彩な科目が設定されており、小中学校に比べて、高等学校は各学校の特色を出しやすくなっている。まさに、文理横断的な学びの充実、理数系人材の育成を狙いとしたカリキュラム・マネジメントを進めるべきである。また、県教育委員会もどのような科目の設定・配置が文理横断的な学びの充実、理数系人材の育成につながるのか、具体的な例を示しながら学校を指導していくべきである。大学入学共通テストでは、広く文理横断的な学力が求められている。生徒の進路実現という観点からも文理横断的な学びの充実は必要である。
- ・施設・設備の老朽化対策については、特にトイレの改修は最優先である。
- ・東京都とは隣接県協定を結んでいないので、東京都の高校に行くのも東京都から来るのも私立高校への入学生ばかりである。県立高校からすれば流出するばかりという環境であり、生徒募集を考える上でこの点も重要な要素になると考える。
- ・隣接県協定があり、東京都の公立はいけない。流出する生徒は基本的には私立に進学する。
- ・私立は授業料無償化といってもお金はかかる。つまり東京都に千葉県から流出する生徒は、どういう家庭の子供かは、だいたい類推できる。そういう子たちが東京都に流出する千葉県の都市部を考えると、ある程度学力的な部分で上位の子供を集められる千葉の学校ってというのは、厳しい部分がある。
- ・商業は高校と大学の繋がりはある。それはおそらく商業高校の方から全国的に大学と繋がりを求めているのだと考える。今言ったような繋がりを大学が持つには、もっと大学が働き掛けねばならない。例えば、県立高校に教員基礎コースがある

からその高校と結びつくことで、大学を知ってもらい、それだけでも教職課程に進むために、本校学部に入學してくれるのではないかとっている。大学に必要なのは、地元の高校がどんな学びをやっているか、大学の学びとどう繋がるかを知ることである。

【委員】

- ・昨年、今年と普通科に進学した生徒は、私立も含めると9割程である。専門学科に進んだ生徒の割合が大体1%程度。幕張総合高校や小金高校の総合学科も含めると割合は高くなる。専門学科に進学する生徒は少ないと考えている。
- ・普通科に進学した方が卒業後の進路の幅が広がり、芸術科など専門学科に進学し、合わずに辞めてしまうと単位の取り直しが苦しくて普通科に戻れないというような声が保護者からあり、生徒は普通科を選択する形が多いと思う。
- ・普通科に併設した専門学科が1つある形がよい。普通科を見学に行った流れの中で、専門学科を選択する場合もあるかもしれない。個人的には、普通科の中にコースがあることが魅力的だと思う。保育の学びや教員の基礎を学べるなど、普通科の中で学べることは魅力的だと感じる。
- ・私立無償化の影響で、流れている傾向が本校でもあるため、普通科の中に特色ある学びがあれば、公立高校を進路指導の選択肢に活かしやすいため、力点を置いていただけるとありがたい。
- ・子供のアンケートから探してみると、家から近い、制服もあるが女子であり、男子が制服かっこいいで選ぶことはなかった。あとは、文化祭での先輩たちの魅力。最後に決め手になるものがあればよいという話があり、決め手になることが、高校側が設定できるもの、県のお金がないとできないもの、制服は簡単に換えられるものなのか。
- ・トイレなど、施設面のハードは結構難しいイメージがある。決め手を考えると、普通科にコースがあるとよい。総合学科もあるが、この地区だと幕張総合高校と小金高校は学力が高い。個人的には市立高校が総合学科を導入した場合、急増するのではと思っている。
- ・自分が県立高校で勤務し、自分の子供を県立高校に入學させたいのであれば、県立高校にしかないコースをやっぴり前面に押し出したい。立地は換えられない、鉄道も換えられない、ハード面など予算が必要なものが難しいのであれば、コース設置しかないと思う。

【委員】

- ・アンケートの中に、会社経営に関する仕事を希望している生徒が631人で14.04%

の方が興味を持っている。将来は経営に関する仕事に就きたい方がいる中で、次のアンケートでは、情報ビジネスコース 7.5%、ビジネス基礎コース 7%で、もっと経営に関連するコースや特色ある学びができる機会が県立高校にもあるとよいと思っている。工業高校、商業高校、農業高校だけじゃなく、ビジネスというものを総合的にやりたいという方がいると思う。

- ・ 県立高校をビジネスに特化しても面白い。特色のある高校、例えば、中学から高校まで一貫してできる高校、もしくは、夜間までできるなど、いろいろあると思うが、特化した専門コースの中で、生徒が見つけて選べるようになればよいと感じる。

《事務局》

- ・ ビジネス基礎や将来の商業関係の仕事、起業やビジネス関係の基礎的な資格などは、商業高校を中心に展開している。千葉商業高校で起業家育成に関するコースがあり、ビジネスを自分で立ち上げる学びを実施している。また、千葉商業高校では千葉大学の学生と連携し地域の課題を研究しながらビジネス化に応用していくこと、各学校で探究学習を行い自分で課題を見つけ、探究学習の中でアントレプレナーシップを実施している場合もある。

【委員】

- ・ 商業高校に進学する生徒は少ないのではないか。

《事務局》

- ・ 商業科は全県で志願倍率 1.0 倍を切っている。

【委員】

- ・ 普通科の中で経営者を目指す方もいる。今商業高校に進学し、そこから就職する人が少なくなっている中では、普通科の中でもそういう科があってもよいと思う。
- ・ 文部科学省のルールや教育基本法に定められた枠組みに縛られていては、県立高校が楽しい学校になるのは難しいと感じる。

【委員】

- ・ 特に松戸は武蔵野線が通り、都心にも近いため、以前調べたところ、松戸からは、150 を超える高校を選べる。進路選択をしていく中で、普通科に焦点を当てると私立は、実際に高校見学で施設の面や進路指導、いろんな部分で特化してやっている部分がある。
- ・ 生徒の中で、公立高校のどこを選択するのかとなると、自分の学力に合うという選び方をしているところが多い。特色だとか、専門学科を選択肢に入れられればよいと思う。

【委員】

- ・今回は都市部の話だが、県単位の話し合いの中では、南部とか東部にある職業系専門学校、例えば水産のような、産業と養成を含む県立高校は定員割れしていてもやめにくい。
- ・今回沼南高校と沼南高柳高校の統合が決定しているが、都市部は交通網があることで、それなりに通学ができる。県立高校は適正規模ということはある程度考えている。そういう意味で、都市部での統合はこれからも進めてよいと思う。
- ・私立は学則定員、つまり法律上この人数まで入れてよいという定員があるが、少子化により学則定員が大きすぎ、現実と乖離してきているため、募集定員というもう一つの定員を設けている。その募集定員で充足率を見る。県立は伸び縮みできないと思う。学校数で伸び縮みするしかないのではと思っている。
- ・以前の我孫子・柏・鎌ヶ谷地区の地域協議会に出席したが、地域に高校は必要だが、すかすかの学校は通学している生徒たちは侘しい、こういう意見が強かったように記憶している。ある程度子供たちの数が都市部では寄せられるはずなので、その方が子供にとってもよいと思う。
- ・千葉県は、公立高校に行く子供が圧倒的に多い。公立高校が第1希望で、私立は公立に落ちてしまったら進学するような空気を感じている。
- ・小学生も、中学受験で東京都からの流入よりも東京都に流出することが非常に多い。東京都の私立は都から独自の予算が多くあり、都の私立は敷地面積は狭いが、その分建物に予算をかけ、環境づくりをしている。そこと競争するのであるから、県は応援しないといけない。

【委員】

- ・市川市では、地域の高校と連携し、協力をいただいている。市川市は今後、小中一貫した英語教育に尽力することを目指している。市川市を通る総武線、北部の方だと、私学の小中高の一貫した学校が多い。南部には、そういった学校が無いという状況である。小中高校で、今後英語教育をやっていく中で、高校とうまく連携できることを希望している。
- ・市川市は小中一貫の義務教育学校を県内で最初に設置した。その連携した学びはとても大事と考えており、今後県立高校とよい形で協力いただけたらと思っている。

【委員】

- ・第2学区に関しては立地からすると、都内に進学する子供が多い。県立高校は立地が悪い。学校を選択するところで、施設・設備やトイレなど、現在の子供たち

は和式トイレを使ったことがない子供になり、このトイレだけで学校を選択肢から外したという子もいる。お金を掛けるならば、親・子供に高校を選ぶ際の選択のところに、設備の充実度があるため、そこに力を入れていただきたい。

- ・親と子供の大きな違いは、子供たちは制服で高校を選択する。県立高校受検は1回勝負なので、学力だったらこの高校、少し足りない場合はこの高校という話をする。ただ子供たちは、1次試験で受かりたい。2次に回るつもりはなく、自分の学力ならどこがいいか、その範囲に高校が1～3校あり、通学手段を考え、その中から文化祭を見学し、先輩の様子や制服の良し悪しを見る。アンケートの比率をみると親は11%、子供は33%が制服を見ている。もっと単純に子供のアンケートに目線を向けていただけるとありがたい。
- ・千葉から都の私学に通学している生徒は都の補助が受けられない。都に住んでいる子供が千葉県の私学に進んだ場合は補助が出る。都の税金を使用しているからである。それがあつたから流出を防いだとも受け取れる。
- ・今回無償化になったが、私学は施設使用料などが高い。無償化により、払う金額は半分まではいかないが、今後の選択肢が増えるのではないか。中学校のPTAをやっていると周囲の受検状況の情報は、2分化してきている。県立の校長先生が頑張っても、志願倍率が低下してしまう。兄弟が私学の場合、下の子は同じ進路を取る例もある。

【委員】

- ・市川市は今度の4月から新しい総合計画というものが動き出すが、その中で人口推計をやっている。東京近郊の都市は、人口が微増しているような状況がある。市川市は、2040年程度までは人口が増える推計を出している。少子化は加速とは言わずとも減り続けるというような形はあろうかと思う。14年で30%減というのは、おそらくこの都市部には当てはまりにくい。もう少し緩やかというのを1つの感想として、その辺も少し考慮していただくとよいと思う。
- ・現市川市長は子供の教育を重要視している。小中一貫校、一貫教育というものを進めている中で、市長は市立高等学校の設置を検討している。市の広報誌の中でも、市立の中学校で学んだ子供たちが、魅力のある市立高校を目指す流れをつくりたいと言っている。
- ・千葉県もかなり広い中で、都市部とその他地域の状況も違ってくると思うため、その辺を含めて、御検討いただくとよいと思う。

【委員】

- ・汚い外壁、暑い寒い体育館、体育館に関してはエアコンの設置は進んではいない

と思う。夏の体育は、本当に命に関わるような暑さになり、送風機だけでは対応できなくなっている。その他には、雨漏りしている学校もあるため、直すべきところはきちっと直していただきたい。

- ・トイレの問題は、少しずつ洋式になってきているとは思う。古い校舎のトイレは、夏場臭いが出て、それが教室の方まで届いてしまう、学び舎としての環境は劣悪と感じる。そういうところで県立高校は少しずつ離れていっていると思う。
- ・私立の方が設備が整い、制服も魅力的、そういうことで私立が選ばれてしまうのだと思う。県立高校は設備の見直しをもっともっと予算つけていただき、子供たちが快適な学校生活を送れるような環境を作っていたらと思う。

【委員】

- ・浦安市の場合だと、社会的な少子高齢化という流れは当然あるが、それよりも開発埋め立てに伴う開発部で一気に人が入ってきた世代が、段階的に高齢化をしていく流れが強い傾向にある。そのために、1990年ぐらいだと年少人口20.8%ぐらいあったが、30年後の2020年に12.6%と8%ほど下がってきている状況にある。年少人口から高校に進学する際に、浦安エリアから上がってくる方は、今までと比べるとかなり少なくなる。
- ・浦安は地理的に言うとどん詰まりのところにあり、千葉県に行くのと同様に東京都の方に大分出ていく。今回のアンケートでも私立に出ていく方の割合というのが非常に多い状況になっている。そこを踏まえると、県立高校として、どのように魅力を見せていくかが大事だと思っている。
- ・浦安健康元気コンソーシアムをやっている。浦安の高洲地区にあり、浦安南高校をはじめ、医療機関や福祉団体、あるいは同じく浦安市との連携で、高校生が浦安市の特別養護老人ホームや保育園などにインターンを体験しながら、高校にいる間に職業体験などを実施している。先日、浦安南高校の校長先生から「保育園にインターンで行った生徒の中で、将来保育士なる」という将来の夢を語ってくれた生徒がいるという報告もいただいている。
- ・何か特別なものでなくても、将来、子供たちがその3年間の間に、自分の夢を見つけられるような地域との連携であるとか、そういったところも踏まえた魅力の向上というのを図っていくのがよいと感じた。

【委員】

- ・本校でも、来年か再来年には普通教室棟のトイレ全面大改修の順番が回り今設計をしているところである。県は、例えばトイレは全てのトイレを洋式化することを順次進めているが、正直なところ、進捗は学校数が120校以上あるため、遅々

として進まない部分が冷房を含め確かにある。県の方も努力していただいていると思うが、もっと早く進められればよいと思う。

- ・全ての高校と言ってもよいと思うが、高校は地域の小中学校と連携している。本校でも、保育園、幼稚園へのインターンシップや夏休みの学習ボランティア、書初め教室である。その辺の宣伝不足も感じている。
- ・自治体別公立中学校卒業者の進路先の部分、京葉線・総武線・常磐線沿線は、県外への進学者が、市川市で20%を超え、浦安市では30%を超え、松戸市で16%いるということで、東京へ出ていく生徒の数は捨てられない数であると思っている。今回の資料の中で、ここはやはり注目すべきところであり、この都市部において中学生が何をすれば千葉県にとどまってくれるのかを考えないといけないのかという数字は出ていると感じている。
- ・この地区は都市部のため、県立高校のほとんどが普通科である。千葉県におけるこの普通科志向は強く、中学生の進路希望は普通科、保護者も普通科である。この普通科志向がいつの世代から千葉県に定着したかは難しいところである。私が教員になった頃は、いわゆる2高は工業高校とか実業高校だったと思う。初任が野田の高校であり市長さん以下、キックマンの専務取締役も実業高校の卒業生の時代があり、それだけ魅力があり、卒業後に働ける場所で活躍できた。いつの時代からか、大学の進学者が増え、普通科志向になり、特に都市部はそういうことになった。それが今また見直されてきている。
- ・中学校の先生からあったように、学力で学校を選ぶ。そこに応じて、普通科に特色が作られたのだと思う。それを統合したからといってその子たちが本当に一緒にやれるのか。どういう魅力を2校くっつけて残すかというところは、よく考えていかないといけない。それをやるには、教員の数をそのままプラスして欲しいと思う。
- ・普通科の中にあるコースの選択は3年生で結構あるが、それをもう少しわかりやすくコース名をつけると、このような選択がよいかになると思う。ただ選択を増やすコースを作ることは先生の数が必要になる。また、教室の数が必要になるため、単純に人数だけの統合ではなく、統合後に、先生がどれだけ必要なのか、教室がどれだけ必要なのかを考えて、学校規模を考える必要があると思っている。
- ・東京の新聞で出た東京都教育委員会の調査でも、公立には施設設備は求めてないというアンケート結果が出ていて、それよりもしっかり学習を行える高校生活を送れるところに意見がある。高校側としては、子供たちがその場所で、子供たちの口から楽しいという言葉が出てくるのが一番よいと思うので、学校行事、部活動、特別活動を進めていきたいと思っている。

【委員】

- ・私立中学高校で進路を担当していたが、いかに自校を選択肢に入れてもらうかが重要であり、特色を出してとにかく選んでもらうきっかけ作りをすることが重要であったとその時から感じている。
- ・何でこの高校を選ぶかというきっかけの最後の1つが欲しいと思う。これがあるから、この高校を選んだという、学力で選んだとは言いたくないところもあるはずである。それをどうやって見せるかが大事だと思う。
- ・浦安市では、今年から学びの多様化学校を中学校に設置した。初めて卒業生を出し、無事8名の進路先が決まった。そのうち2名は浦安市の県立高校に進学したため、浦安としては財産なので是非残していただきたい。それ以外の生徒は、私立の学校やサポート校へ進学した。進路が全員決まったが、この先考えていくと不登校の数は全国的に増えていて、浦安市でも増加傾向にある。令和2年のコロナ禍から増えているので、激減することは考えられない。
- ・今回県の統合で八千代東高校に学びの多様化学校を設置することを嬉しく思う。この先、葛南地域にも設置してもらいたい。授業時数柔軟化や少人数だと、通常の学校で不登校だった生徒は、生き生きと学び、保護者からはうちの家庭に3年ぶりに春が来ましたという意見もあった。1人を救うことが、その家族全員を救うことを考えると、この先県立高校にもそういう学びの場が広がっていけると助かる。
- ・少子化が進んでいる中、再編、統合の流れはやむを得ないと考える。方針、方向性等、適切に進めていると思う。
- ・地域の特性上、都内私立へ志願者が流れていく現状があるが、県立高校への志願者も根強くいる。特に浦安は2校のみであるため、できるだけ残していただきたい。
- ・都市部の学級規模についてももちろん、地域差によって県東部や南部と同等にする検討をしても良いのではないか。
- ・生徒に選んでもらうための特色づくりや広報は当然必要だが、中学校での進路指導の充実（教員への潤沢な情報提供、意識改革）も必須と感じた。
- ・現在進めているように、生徒や保護者、地域や教員の意見をよく聞きながら、皆が納得できる再編を進めていただきたい。合わせて、引き続き魅力ある高校づくりをお願いしたい。

【委員（当日欠席）】

- ・現行の一学年8クラス320人を6クラス250人前後にするのは妥当。
- ・市川南部と浦安地区が規模が小さい特色のある学科、例えば理数科、国際科（語

学、人道支援等) を設けて広域的に生徒を集める。

- ・効率化は常に見ておかななくてはならないが、それによって起きる負の部分は当然埋める。例えば地理的に遠い場合に寮などの設置。
- ・親の意見に大きく影響を受けるのは当然だが本人の希望ではない。読み取り方に注意が必要。
- ・無償化の影響はまだ分からないが、特色を持つこと、今の時代に合った特色ある学校に、そして熱意のある先生を余り忙しくさせない、余裕を持って教育に打ち込むことが出来るように。

【委員(当日欠席)】

- ・普通科希望者が72%という現状について、普通科を選択することに対する様々な考えに否定するつもりはないが、将来像がなかなか見据えられない状況にあると捉えると、大きな課題と感じる。
- ・資料「高校教育改革に関する基本方針」～2040年に向けた・・・の記載内容を重く受け止めている。これからの社会を担う世代に求められる力を育める教育体制の構築と高等学校における教育内容の提供、あわせて、高校からの情報発信を行うことが重要だと感じた。